

〔 関西地域で被害が増加している 〕



イネ縞葉枯病対策を徹底しましょう！

○イネ縞葉枯病とは？

病源となるウイルスを保毒した「ヒメトビウンカ」が、稲を吸汁することによって発生します。発病すると、葉に黄白色から黄緑色の縞状の紋斑を生じます。水稻の生育初期に発病すると新葉が垂れ下がってやがて枯死し、出穂期に発病すると穂が出すくんで粃が奇形や不稔となります。また、被害が大きい場合には、減収となります。発病してから治療することはできません。

○ヒメトビウンカの生活場所と防除対策

ヒメトビウンカは、周年場所を変えて生息しています。時期や発生状況に合わせた防除対策が必要です。

春夏の防除

イネでの発病を抑えるため、薬剤の育苗箱施用や本田散布（6月中下旬目安）によりヒメトビウンカを防除します。また、発病が多い地域では、育苗箱施薬と本田散布の両方を組み合わせる「体系防除」が有効です。

本田防除は、県の病害虫防除所が発表する発生予察情報等を参考に、適期散布に心掛けましょう。

秋冬の防除

稲刈り後は耕起を早めに行うとともに、畦畔等の雑草防除を徹底し、ヒメトビウンカの生息・越冬場所をなくしましょう。

栽培管理 (水稻)		播種		移植			収穫									
生息場所	水稻															
	麦類						イネ科雑草						再生稲, イネ科雑草			
防除	耕種的	状況に応じて実施する。													秋季耕起	
	薬剤	育苗箱施用			本田散布							イネ科雑草の除草				
月	3月	4月	上	中	下	上	中	下	上	中	下	8月	9月	10月	11~2月	
			5月			6月			7月							

農薬を使用する際にはラベルを見て、対象作物や希釈倍数、使用時期、使用回数を良く確認してから使用しましょう。

問い合わせ先: 坂東地域農業改良普及センター
TEL0297-34-2134